

本社

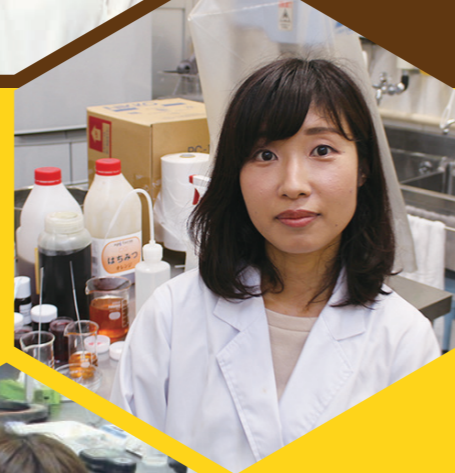
岐阜県岐阜市加納富士町1丁目1番地 TEL:058-272-1221 FAX:058-275-0001

事業所

- [城南事業所] 岐阜県岐阜市加納城南通1丁目18番地
- [薬師工場] 岐阜県岐阜市薬師町30番地
- [本巢屋井工場] 岐阜県本巢市屋井1057番7
- [東京営業所] 東京都港区芝浦3丁目12番地2 芝浦田中ビル3階

関連企業

- 株式会社秋田屋フーズ (食品製造業)
- [洞戸工場] 岐阜県関市洞戸飛瀬106番1
- 日本養蜂株式会社
(取得許可: 医薬品製造販売業・医薬部外品製造販売業)
医薬品店舗販売業



Recruit Information

江戸時代から続く
秋田屋のミライを君と一緒に。

ミツバチに学び、人と社会にしあわせをはこぶ



採用関係 お問い合わせ先

株式会社 秋田屋本店 総務部 栗林
TEL.058-272-1221 応募フォームはこちら



採用案内

COMPANY DATA

— 会社概要 —

未来志向の循環型社会を実現する、 懐かしくも、新しい事業を目指して

秋田杉を使った巣箱に代表される、養蜂器具の製造をはじめとして
現在に至る200余年の間、信用を第一に確かな製品を造り続けてきました。
そして、その歴史と伝統を礎に、安心・安全を求め、たゆまぬ研究開発、
徹底した品質管理により実績を積み重ねてまいりました。
これからもミツバチたちが集めた、自然からの貴重な恵みを無駄にせず、
皆様の美しく、健やかな暮らしの、お役に立てる製品を提供してまいります。



創業 1804年(文化元年)
設立 1961年(昭和36年)
資本金 5,000万円
代表者 代表取締役社長 中村 浩康
従業員数 200名

株式会社 秋田屋本店
十代目社長 中村 浩康

事業内容

養蜂全般 蜂製品の製造・販売(はちみつ、ローヤルゼリー、プロポリス、花粉、ビーズワックス)・養蜂資材の製造・販売・
種蜂の販売・食品製造及び製造受託・健康食品製造及び販売・化粧品販売・通信販売・動物用医薬品店舗販売

本 社

岐阜県岐阜市加納富士町1丁目1番地 TEL:058-272-1221 FAX:058-275-0001 <https://www.akitayahonten.co.jp>

募集要項

- 募集職種 営業、製造、生産技術、品質管理、マーケティング、養蜂
- 給与(基本給) 230,000円(院卒) 220,000円(大卒) 200,000円(高卒)
- 諸手当 通勤手当、役職手当、子供手当、シフト勤務手当、時間外勤務手当など
- 昇給 年1回 賞与 年2回
- 勤務地 岐阜市、本巣市、関市
- 勤務時間 8時30分～17時30分 (部署により2交代、3交代 勤務有り)
(平均残業時間月12時間 2023年度)
- 休日・休暇 年間休日120日(土日完全週休2日) 年末年始、夏季
年次有給休暇、特別休暇(結婚、慶弔)
- 社会保険 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険
- 福利厚生 育児・介護休業制度、退職金制度、制服貸与
- 平均年齢 39歳



BUSINESS CONTENTS

— 事業概要 —

蜂 産 品 (ほうさんぴん) ～安心安全なミツバチ製品を～

蜂産品事業では、はちみつやローヤルゼリー・プロポリス・花粉など、ミツバチが作り出す、さまざまな製品を取り扱っています。食の安全が求められる中、厳しい品質管理体制のもと、安心・安全な製品を食品メーカー様、医薬品メーカー様に原料として、また量販店やドラッグストア、通信販売を通じ、最終製品としてご提供しています。また、必要に応じて現地生産国で、品質や安全性を確認しています。例えばはちみつでも産地や花の種類によって風味や特徴はさまざまですが、お客様のご要望や用途に合わせた提案を行っています。



受 託 製 造 (OEM) ～チアーパック®受託製造のエキスパートがお届けする高品質なOEM～

OEMはoriginal equipment manufacturerの略で、他社ブランド製品の製造を行うことです。秋田屋本店では平成元年に、業界に先駆けてストロー付きパウチ「チアーパック®」の生産設備を導入し、清涼飲料から食品に至るまで幅広く受託製造を行っています。毎年コンスタントに国内でもトップクラスの1億食以上を生産し、品質面、設備面でも高い評価を頂いています。



養 蜂

～最古の歴史、最新の技術、最高の品質をもつ養蜂の総合商社～

秋田屋本店の養蜂のルーツは、良質な秋田杉を使ったミツバチの巣箱作りから始まりました。明治20年に養蜂部を設立して以来130年近く、全国の養蜂家の皆様からご意見・ご指導をいただきながら、いろいろな養蜂資材・器具を開発してきました。最近では趣味の養蜂を楽しむことができる養蜂キットなど、専門の方から趣味の方までのお役に立てるツールを数多く揃えています。また、農家の皆さま向けに、花粉交配(ポリネーション)用のミツバチの販売を行い、日本の農業、食を支えています。



200年企業 秋田屋本店の歩み

社名の由来

秋田屋本店は1804年(文化元年)初代中村源次郎が材木商を開いたのがはじまりです。代々、銘木「秋田杉」の取り扱いをしてきたことから、屋号を「秋田屋」とし、現在の社名になりました。

- 1804年(文化元年) 創業
- 1887年(明治20年) 養蜂部創設
- 1915年(大正4年) 「養蜂いろは新聞」を発行
- 1918年(大正7年) 台湾、朝鮮半島へ養蜂器具や種蜂の輸出を開始
- 1923年(大正12年) 養蜂器具カタログ「養蜂案内」を発行(のちの秋田屋商報)
- 1929年(昭和4年) 中国への養蜂器具や種蜂の輸出を開始
- 1931年(昭和6年) 7代目中村源次郎が事業の進展と拡張の為、合資会社秋田屋本店を設立
- 1947年(昭和22年) 8代目は戦後、中村源次郎を襲名し、合資会社秋田屋本店代表社員に就任
- 1959年(昭和34年) ローヤルゼリーの研究を岐阜薬科大学と共同でスタート
- 1961年(昭和36年) 株式会社秋田屋本店を設立
- 1963年(昭和38年) 日本で初めて生ローヤルゼリーの医薬品製造承認を取得
- 1976年(昭和51年) 医薬品部門を独立させ日本養蜂株式会社を設立し、医薬品の製造及び品質管理に関する基準(GMP)に適合した工場を新設
- 1980年(昭和55年) 食品製造専用の薬師工場稼働
- 1985年(昭和60年) 第30回国際養蜂会議名古屋大会で数々の賞を受賞
- 1989年(平成元年) 包装容器チアーパック生産設備の導入、飲料製造開始
- 2002年(平成14年) 飲料製造専門の洞戸工場稼働
- 2007年(平成19年) 洞戸工場にて総合衛生管理製造過程(HACCP)の承認を取得
- 2009年(平成21年) 通販ブランド「AKI PURE」を立ち上げる
- 2013年(平成25年) 養蜂部創設125周年を迎える
- 2014年(平成26年) 医薬品の製造及び品質管理に関する基準(GMP)に適合した本巣屋井工場を稼働
- 2020年(令和2年) 洞戸工場を株式会社秋田屋フーズに分社化国際規格の食品安全マネジメントシステム FSSC22000 & ISO22000 認証取得
- 2021年(令和3年) 薬師工場 JIAサプリメントGMPの認証を取得(スポーツサプリメントの製造、充填及び包装)



秋田屋本店養蜂部(大正期)
後列右端が6代目 中村源次郎



いろは巣礎
明治時代、世界的昆虫学者 名和靖先生の協力を得て巣礎の製作を開始し、「いろは巣礎」と名付けました



洞戸工場
チアーパック生産量日本一を誇る飲料専用工場



本巣屋井工場
2014年、日本で最新の設備を備えたはちみつ専用工場を稼働



週刊現代『日本が世界に誇る二百年企業の研究』で紹介されました。



経済産業省により、『地域未来牽引企業』に選出されました。



他にも、さまざまなメディアに取り上げてもらっています♪



朝日新聞(岐阜版)に養蜂部の「企業養蜂」が取り上げられました。



「北欧はちみついちごバター」が2020年ベストお取り寄せ大賞で金賞を受賞しました。

秋+屋

AKITAYA

通信販売営業中!!



花の種類ごとに香りや色が違うように、花の蜜から作られるはちみつも、実は花の種類によって味が全然違うこと、ご存知ですか? 柑橘系の爽やかな味のもの、クリーミーでコク深いもの、サラッとしてクセのない味のものなど、花の種類によって風味が全く違います。その数1000種類以上と言われており、200年以上養蜂に携わっている私たちでも、未だに新しい蜜との出会いがあります。どのはちみつが一番自分好みなのか、自分なりの逸品を、ぜひ『秋田屋オンラインショップ』で探してみてください。

公式SNS更新中!! ぜひご覧ください♪





営業
川瀬 蓮

ニーズをつかんだ提案で、秋田屋製品を全国へ。

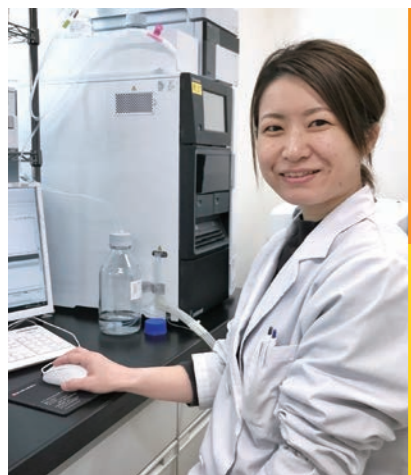
大学では農学部で学び、岐阜の食品メーカーでの就職を希望していました。就職活動を進める中で岐阜県が近代養蜂発祥の地であり、秋田屋本店が日本で最古の養蜂問屋ということを知って興味をもったのが入社きっかけとなりました。現在は、蜂産品(はちみつ、ローヤルゼリー等)の原料・商品を販売する営業部に所属しています。1日中外勤でお客様の所へお伺いし営業をする日もあれば、提案で使用する資料や試食を準備したりする内勤日もあります。自分の担当した顧客の製品が全国のコンビニエンスストアやスーパーマーケットに陳列されたとき、やりがいを感じます。実際にその商品を販売店で目にするのと次もがんばろうという意欲につながります。仕事で大変なところは、製造現場や原料の調達部門との調整をしながら進める生産調整です。お客様の期待に応えられるよう日々経験を積み、努力も重ねています。



養蜂
岩田 光将

歴史ある養蜂部は、自己研鑽の場でもある。

大学では生物学を専攻していましたが、研究室に籠る日々から解放され、開放的な空の下で生き物に携わる仕事がしたいと思い、秋田屋本店を選びました。また、養蜂という昆虫を生業とした業種に魅力を感じ、長く営んでいる企業で手に職を付けたいという気持ちが強かったのがきっかけです。担当している仕事は、ミツバチ、はちみつの仕入販売業務や企業への養蜂指導がメインです。全国の養蜂業者様のところへ赴きミツバチやはちみつを仕入れたり、養蜂資材の配達をおこなったりとミツバチのように全国を飛び回っています。自社蜂場でミツバチの育成や花粉交配用ミツバチの育成をすることもあります。気候や各地の養蜂業者様によって養蜂スタイルや取れるハチミツが違うのが面白くもあり、全国の情報やミツバチ、ハチミツの知識を習得と更新するため、日々研鑽を積んでいます。



品質管理
堀口 直子

商品の品質につながる、責任の大きな仕事。

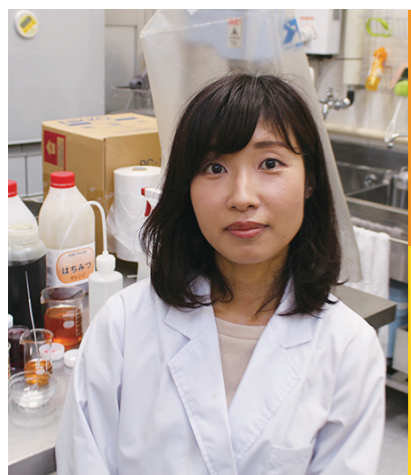
私は生まれも育ちも岐阜で、都会すぎず田舎すぎず住みやすいこの街が好きです。そんな岐阜で、大学で学んだ食品衛生の知識を活かせる場所を探したところ、秋田屋本店と出会いました。現在、品質管理室に所属し、はちみつの理化学検査を担当しています。検査業務のほか、分析成績書の発行、検査記録書の確認なども行っています。製造から納期までの期間が短いときにはスケジュール調整が大変です。また、分析機器の不具合に悩まされることもあります。その度に機器に関する理解が深まります。秋田屋のはちみつは、社名は出ていなくても実はスーパーに並ぶドリンクなどに使われていて、私たちの検査がその商品の品質につながるの、責任の大きな仕事にやりがいを感じています。休日には仕事を一旦忘れ、自然の多い田舎へ遊びに行きリフレッシュしています。



事務
河口 祥子

お客様からの感謝の言葉にやりがいを感じます。

地元、岐阜の食品に関する会社を志望していました。秋田屋本店が歴史のある会社であること、養蜂業だけでなく一般消費者やメーカー向け製品の製造・販売など、多くの事業を展開していることに成長性を感じたため、入社を決めました。現在は、蜂産品原料に関する業務や、電話・来客対応、出張の際の切符の手配などを担当しています。午前中は、蜂産品原料の注文が集中するので、工場への出荷案内書の作成を中心に、午後からは、出荷した製品の売上処理、お客様や他部署からの依頼の対応などを行っています。これまで自分ができなかったことができるようになったと感じた時や、お客様から感謝の言葉を頂いた時にやりがいを感じます。どんな時でも臨機応変な対応が求められるので、常に様々なことを考えながら行動することが大変です。



製品開発
下川 祐里

お客様の課題をクリアすることでレベルアップ。

製品開発室では営業から依頼された製品企画の具現化、試作、また他社に試作依頼、商品化に向けての様々な業務を行います。日によってやることは異なりますが、OEM関係の試作をおこなったり、自社製品の案を考えたり、年に数回参加している展示会が近付くと展示物や配布サンプル作りなども行います。依頼品の多くが健康食品なので、健康食品素材について勉強をしたりもします。商品のアイデアなどを考えるのはとても楽しいですが、OEM関係の試作品を作る時には、何度も試作を繰り返し、その度に食べなくてはならないことが大変です。しかし、提出した試作品でお客様からOKがでると、頑張ったかいがあったと、とてもほっとした気持ちになります。お客様からの依頼一つ一つが自分のレベルアップに繋がるという気持ちで、日々頑張っています。



製造部門
山田 大輔

どんなときでも、信頼できる仲間がいる。

就職活動をしている時に、沢山ある会社からどの会社を選べばいいのか悩んでいました。その時に秋田屋本店が、自分の生活に身近な商品を製造していることを知り、親近感が湧きました。そこから秋田屋本店に興味を持ったことがきっかけとなり、就職することを決めました。自分がミスをした時に、先輩がフォローしてくださったり、また、自分が先輩として後輩から相談を受けたり、サポートすることもあります。このように仕事を通じて、職場の皆さんと打ち解け、信頼関係を築くことができるととても楽しく仕事をする事ができています。



製造部門
藤井 清弘

学んだ知識を生かして製造現場に貢献。

機械科の専攻でしたので設計や機械加工について学びました。もともと食品会社に興味があり、卒業課題でFA機器装置の製作をしていたので、知識や技術を生かせると思いました。地元企業の中でも秋田屋本店が歴史ある会社だと知り、興味を持ったので入社を決めました。工場には様々な機械・設備があり、基本的に補修を行うのは私たち工務担当者です。仕事量が多い反面、身に付く知識や技術は多いのでやりがいを感じます。大規模な機械停止になる前に異常に気付き対処したり、製品事故が起きる前に対策を立てることができた時はやっとなったと感じます。



製造部門
河合 志保

大変だからこそ、得られる達成感がある。

私は食品関係に興味があり、食品製造の仕事に就きたいと考えていた時に、地元で長い歴史のある秋田屋本店を知りました。実際に工場見学に行き、会社の雰囲気や現場での作業を間近で見て知り「私も携われたら」と、思い入社しました。たくさんの製品があるので、品名はもちろん、製品毎の作業工程や様々な機械・設備の操作などを覚えることは大変ですが、自分が製造に携わった商品が店頭で販売され、手にした時にとても達成感ややりがいを感じます。